

令和4年度 第32軍司令部壕保存・公開検討委員会

第7回会合／議事概要

日時：令和5年2月10日(金)

午後14時25分～午後16時30分

場所：自治研修所4階401・402研修室

【委員】

法 律	玉城 辰彦	ていだ法律事務所 弁護士
経済／観光	下地 貴子	(一財)沖縄観光コンベンションビューロー 国内事業部受推進課アドバイザー
沖縄戦研究	吉 浜 忍	沖縄県史編集委員会 委員長
戦跡文化財	大城 和喜	元南風原文化センター 館長
応用地質学	佐々木靖人	国立研究開発法人土木研究所 理事
地盤工学	伊 東 孝	国立大学法人琉球大学工学部 教授
トンネル工学	小 泉 淳	早稲田大学 名誉教授
地域振興	宮良 吉雄	首里自治会長連絡協議会桃原町自治会長
平和教育	仲泊 和枝	(特非)沖縄平和協力センター 理事長
情報技術	山田 一誠	(一財)沖縄ITイノベーション戦略センター 専務理事

【事務局】

沖縄県子ども生活福祉部 女性力・平和推進課 / 保護・援護課
沖縄県知事公室 特命推進課
沖縄県土木建築部 都市公園課
沖縄県教育庁 文化財課 / 県立学校教育課
那覇市 平和交流・男女参画課 <欠席>
日本工営株式会社

【議事概要】

- 1 開会
- 2 子ども生活福祉部長挨拶
- 3 報告事項
 - (1) 令和4年度の実施に係る進捗状況について
 - (2) 詳細調査の中間報告等について
 - (3) 意見交換・質疑応答
- 4 議事事項
 - (1) 保存・公開に向けた提言の策定について
 - (2) 意見交換・質疑応答
- 5 閉会（事務連絡）

【開会】

○法律 玉城委員長

- ・ 本委員会は令和2年度に設置され、委員それぞれの専門分野から見た壕の感想や文化財指定について話し合い、類似施設を視察し、文献調査や基礎調査、ロードマップについて検討を行ってきた。令和4年度は、知事への提言策定に向けてより専門的に議論を深め、検討委員会を円滑かつ効果的に開催するために検討グループを設置し、それぞれの検討グループで出された委員意見を検討委員会へ報告をし、提言、たたき台などについて議論を重ねてきた。本日が最後の会合となり、委員の皆様には今回の会合において提言書(素案)の内容について最終確認を行い、提言書を完成させていただきたい。

【報告事項に関する意見交換・質疑応答】

○応用地質学 佐々木委員

- ・ ボーリングコアの写真で坑道の底面が分かったと思うが、坑道自体が埋まっているほかに、緩んだ状況が坑道の上のほうに結構及んでおり、かなり上のほうに空洞がある。地表から3mよりも下に、ところどころ空洞があるので、第1坑道のスロープ部等を整備していくには、空洞がさらに陥没することがないような安全対策も必要。
- ・ 第1坑道のスロープ部の安全性のところ、米軍未調査区間であり、不確実性が高いと書かれているが、空洞による緩みがかかなり上のほうまで達している可能性があるため、万全を期して保全対策をする必要があると思う。

○沖縄県知事公室特命推進課(事務局)

- ・ 今回の調査は、第1坑道の位置を特定するのが主な目的で実施した。今後、地盤の状況を詳しく確認する調査が整備に向けて必ず必要になるので、今後検討していく。

○トンネル工学 小泉委員

- ・ ボーリングデータを見ると、第1坑道上の琉球石灰岩もかなり割れているので、上の3mと4mの間の空洞は落ちてくる可能性があり、将来的には地表面まで問題が生じる可能性がある。今回の調査箇所では崩落しており、他の箇所はまだ分からないが、地表部の現況によってはかなり注意が必要となるので、ぜひその点の確認をしてほしい。

○沖縄県知事公室特命推進課(事務局)

- ・ この部分は引き続き調査を進めながら対策をしていく。

○沖縄戦研究 吉浜委員

- ・ 保存・公開に向けた調査実施の優先度の設定のところでシャフトを入れてほしい。また、それに関連してロードマップにも第4坑口・坑道、シャフトの調査を入れてほしい。

○沖縄県知事公室特命推進課(事務局)

- ・ シャフトについては、位置の特定ができていないが調査対象とする。

○情報発信 山田委員

- ・ ボーリング調査で、床面が見つかったこの調査の結果だけではなく、プロセスについてもアーカイブとして残していくことも大切なので、何らかの形で残せるような準備をした方がよい。

【議事事項に関する意見交換・質疑応答】

○沖縄戦研究 吉浜委員

- ・ 第4坑口は私有地にあり調査は困難であってもやるべきだと思う。
- ・ 32軍司令部壕を知る上で、まだ分からない部分があるので、第1坑口近くでボーリング調査を実施している。そのほかに分からないのは第4坑口。図面には書かれているが本当にあるのか。あるならどこにあるのか。それを確認することは必要だと思う。あわせてシャフトについても確認は必要。
- ・ 米軍はシャフトから入り、中枢部も含めてインテリジェンスモノグラフの図面を作った。場合によってはそこから入れる可能性もあるので、第4坑口・坑道、シャフトの調査をロードマップに位置づけて書き込んでほしい。

○子ども生活福祉部女性力・平和推進課(事務局)

- ・ ロードマップに落とし込むことは可能だと考えており、他の委員の意見も伺いたいと思う。

○経済／観光 下地委員

- ・ 吉浜委員の意見について、ロードマップに落とし込む必要があると思うが、短期で難しければ中長期の欄に加えるとよいと思う。

○トンネル工学 小泉委員

- ・ ロードマップに第4坑道とシャフトのことがどこにも書かれていないので、「未発掘区間(第4坑道及びシャフト)」というように入れて、初歩的な調査を開始するという書き方はできると思う。

○応用地質学 佐々木委員

- ・ 提言書の中に、一番重要なポイントは書いておくべきであり、「壕の全体像の調査・解明を進める」という文言を入れた方がよい。

○トンネル工学 小泉委員

- ・ 全体像を把握するために、未確認区間の調査も含めてすべてが必要であり、ロードマップでその順番を示していくのがよい。未確認の区間についてはロードマップにすぐに反映できないので、提言書（素案）の2ページ35行目に書いてあるとおり、「内部の保存状態や安全性に課題を有していると考えられることから、関係法令に基づき有効な調査、整備方法を検討する必要がある」というイメージになると思う。

○子ども生活福祉部女性力・平和推進課(事務局)

- ・ 委員の意見を踏まえて、提言書のロードマップに、第4坑口とシャフトについての表記を追加をする。

○トンネル工学 小泉委員

- ・ 平和教育学習の利活用や平和の発信・継承についても、公開する場が必要になるので、掲示場などの施設の計画が重要になってくる。
- ・ 沖縄県でこういう施設を作りたいという原案を早めに示し、イメージを共有できるようにしてほしい。予算のこともあるのでなかなか難しいとは思いますが、理想的な構想から始めて現実を加味して修正していくやり方もあると思う。

○地盤工学 伊東委員

- ・ 発掘済区間のモニタリングについて、大規模な崩落があってはいけないので、例えば映像が撮れるようなシステムや、地震計や振動を測れるようなものを入れておけば、途中で何か崩落があれば感知ができるので、モニタリングのレベルを上げて今後監視していく必要があると思う。
- ・ 公開に向けて途中の経過を残すというところで、詳細調査の記録もそうだが、令和7年度からは整備も始まり、掘削等の工事が始まっていく。その映像についても残す必要があると思うので、そういう計画も今のうちから立ててほしい。

○戦跡文化財 大城委員

- ・ 文化財指定について、壕の位置も状態も分からずこれから物理探査の調査が入る。その後に考古学の発掘をするということなので、ロードマップに時期を示すのは難しいと思うが、「壕の発掘調査の完了時には文化財に指定をする」、あるいは「検討をする」という文言だけでもどこかに入れてほしい。

○沖縄県教育庁文化財課(事務局)

- ・ 文化財指定については、状態を確認しながらというところで、直接的に表現するのは厳しいと思うが、できるところから検討をし、基本的には令和8年度の首里城正殿復元の時期を目途に、また、指定に向けて考古学的調査を行った上で、当時の遺構が確認できる流れの手続等も含めてどういう表現が可能かを事務局内で調整をしていきたい。

○戦跡文化財 大城委員

- ・ 沖縄県はまだ1つも戦跡を指定していないので、32軍壕を沖縄県戦跡文化財の第1号に取り上げてほしいと強く要望する。

○地域振興 宮良委員

- ・ ロードマップの3(4)に発掘済区間(第2・3・5坑道)とあるが、第2、第3坑口も追加してほしい。

○子ども生活福祉部女性力・平和推進課(事務局)

- ・ 第2、第3坑口については未発掘なので、未発掘区間として整理したい。

○経済／観光 下地委員

- ・ 「ガイドブック」という表現について、第32軍壕は「解説書」または「説明書」という書き方が合っていると思うので修正してほしい。

○平和教育 仲泊委員

- ・ 展示活動のところで、次世代へ伝えていくために、「見る・聞く・体験する」をコンセプトとしているが、「考える」も加えて4つのコンセプトで平和構築の議論が促されるような展示をやってほしい。

5 閉会